

利用者ニーズを満たしつつ、活動量が増える環境づくりについて

法人名 : 医療法人社団和風会
施設名 : メディコポリス観音寺
 デイサービスセンターはしもと
発表者 : 看護師 森香代子
共著者 : 介護福祉士 中井淳子 三宅恵子
 看護師 宮本美恵子 医師 橋本康子

(ここから2段組)

【目的】

当施設は、要支援～要介護1・2の比較的自立度の高い方が全体の90%を占めている。また、軽度～中度認知症の方が全体の60%と、比較的ADLは保たれているが、認知症がある為、活動には様々は援助が必要な方が多く利用している。今回、認知症高齢者が落ち着いて過ごせる。また、利用者ニーズを満たしつつ、活動量が向上する「環境づくり」に取り組んだので、ここに報告する。

【方法】

- 1) 対象者 : 全利用者 (男女比 3 対 7)
- 2) 期 間 : 平成 25 年 12 月～現在継続中
- 3) 方 法 : ①担当職員を 2 名選出
 ②利用者ニーズの聞き取り
 ③職員間で改善点を話し合い、実施

利用者ニーズ①

- ・いろいろな作品作りがしたい。作った作品をみんなに見てもらいたい。

(改善案)

- ・創作活動の進め方を変更する。利用者と職員が一緒に何を作るか話し合っ決めて。出来た作品を鑑賞コーナーをつくり展示する。

利用者ニーズ②

- ・静かな所で休みたい。利用者同士で個別でゆっくり話がしたい。

(改善案)

- ・業務改善を行い、ホール担当職員を増員し、利用者が過ごすスペースを拡大。小集団、又は個別の空間づくりを行う。

【結果】

利用者ニーズ①

- ・作品作りに対して受身的であった利用者が主体的に取り組む場面が増えた。
- ・作品を施設の至る所に飾る事により、施設的な雰囲気が軽減し、暖かな色合いの空間づくりが行え、帰宅願望のあった認知症高齢者が、落ち

着いて過ごすようになった。

- ・自分で作った作品を見に行く等、自主的に施設内を歩く機会が増えた。

利用者ニーズ②

- ・居場所の選択が増え、居心地の良いスペースにて利用者同士の会話が増えた。
- ・机や椅子の配置が変わった事により、一時的に戸惑う認知症高齢者もいたが、時間の経過と共に落ち着いて過ごすことが出来ていた。

【考察】

この様な結果から、今回の取り組みは、利用者ニーズに着眼し、概ね居心地の良い環境づくりが行えたと考える。しかし、今回の取り組みで改善出来た項目は、利用者ニーズのごく一部にすぎず、個々のニーズは多種多様であり、限られた空間・環境の中で、全てのニーズに対応出来る分けではなかった。

今後、限られた環境の中で、利用者ニーズを満たし、少しでも楽しみや過ごしやすい環境を提供するには、継続して利用者個々のニーズに耳を傾け、柔軟に「環境づくり」を続けていく職員の姿勢が大切であると感じた。そして、ハード面の改善だけではなく、職員が統一して利用者の主体性を引き出せるような対応を心がける等、ソフト面の改善を図る事により、より効果的な取り組みが出来る事を学ぶことが出来た。

【まとめ】

今後も、認知症ケア・利用者の自立支援を念頭におき、より良いケア提供にて利用者ニーズに応えていきたい。